



至善館
SHIZENKAN

大学院大学至善館 教育情報の公開

2025年9月1日時点

1. 大学院大学至善館の教育研究上の目的

教育研究上の目的(学則第 5条「本学の目的」より)

社会全体のイノベーションを牽引することで世界の持続的かつ安定的な発展に貢献するという使命感を持ち、22世紀までを視野に入れた事業・組織経営のあり方を構想し、自らリーダーシップを発揮していく中で周囲の共感と信頼を得て人と組織を動かし、構想を実現できる人材を育成する。同時に、新たな全人格リーダーの育成プログラムを確立し、世界のリーダーシップ教育の革新を牽引する。研究活動においては、西洋の合理性とアジアの精神土壌を橋渡しし融合することを目指し、より包摂的かつ持続可能な経済社会像、企業像、組織像のあり方を探究することで、豊穡で安寧な人類社会の未来に貢献する。

2. 大学院大学至善館の概要

名 称: 大学院大学至善館
イノベーション経営学術院
イノベーション経営専攻

学 長: 野田 智義

キャンパス: 東京都中央区日本橋二丁目 5番1号
日本橋高島屋三井ビルディング 17階
(東京メトロ日本橋駅徒歩 0分、JR東京駅徒歩 5分)

学 位: 経営修士(専門職)
**Master of Business Administration in Design and Leadership
for Societal Innovation**

学 費: 入学金 20万円 授業料 240万円(年額)
2年間合計 500万円



教員組織： 学 長 野田 智義
 副学長 吉川 克彦 ※学術院長兼務
 Nalin Advani
 鵜尾 雅隆
 枝廣 淳子
 大滝 精一
 森 健太郎

教員数： 専任教員14名 兼任教員57名 合計71名

	専任教員	兼任教員	計
教 授	14	34	48
准教授	0	21	21
招聘教授	0	0	0
講師	0	2	2
計	14	57	71

(2025年9月1日現在)

※教員の教育研究業績はウェブサイトに掲載

3. 至善館の3つのポリシー

(1) ディプロマ・ポリシー:

本学院は、独自のカリキュラムを修了し、次世代のリーダーに必要な能力である、事業活動や組織、さらには経営を包括的に見渡す視座を持ち、起業家精神と柔軟な発想で、事業の創造と変革をリードする力を身につけた人材に、「経営修士[専門職]:Master of Business Administration in Design and Societal Innovation」の学位を授与する。本学が育成を目指す全人格経営リーダーに求められる能力・資質を、より具体的に定義したものを、以下の4つのコンピテンシーとして定める。

- **個人としての意志力**自分は何者で、何をするために生を受けたのかという問いを通じて、使命感を身につけ、人生ビジョンを持って行動し、同時に、人としての成長を継続する力。
- **経営人材としての構想力**高い視座と長期的な視点を持ち、物事の本質を追求しながら、時代の変化と環境の変容を先取りし、過去や慣習にとらわれることなく、経営者・起業家視点で、新しい事業・組織・経営のあり方を構想する力。

(1) ディプロマ・ポリシー(続き):

- **リーダーとしての実現力**構想の実現に向けて率先垂範で行動し、人々と真摯に向き合い、共感と信頼を得て、組織と社会に波紋を広げながら、創造と変革を牽引する力。
- **全人格な基軸力**歴史観・世界観・人間観に裏づけられた確固たる信条・理念・哲学と、社会の一員であるとの自覚・責務感を併せ持ち、自ら確立する基軸を拠り所として、ぶれずに判断し行動する力。

(2) カリキュラム・ポリシー:

- 独自のリベラルアーツ教育を通じて、世界観・歴史観・人間観を醸成し、個々の信条、理念、哲学となる「全人格な基軸力」を涵養するとともに、過去の潮流と現在の課題を理解し、未来の予兆を感じ取る洞察力を伸ばす。
- 経営人材としての全体俯瞰的・包括的視座を養うため、企業活動を諸機能ごとに細分化して学ぶのではなく、経営全体のプロセスの中での必要性を絶えず意識しながら、知識・スキル・思考法の習得を目指す。と同時に、管理者育成の教育パラダイムからの脱却を図るために、デザインスクールやイノベーションスクールのエッセンスを取り入れ、未来に求められる新たな事業像・経営像・経済社会像を構想でき、イノベーションを起こしていくための柔軟な思考力と感度を獲得できるようにする。
- 至善館の教育の目的は、学生が習得したスキルや知識を実践の場で活用することにある。そこでは、「リーダーとしての実現力」が何よりも求められる。構想の実現にあたっては、周囲の共感と信頼を得て、人と組織に波紋を広げていくことが求められるが、至善館のプログラムでは、そうした行動の源泉となる人間的な魅力・度量・器を培うため、人と向き合い、人と協働し、人を動かすうえでの自身の行動特性や、リーダーとしての強み・弱みを知るためのアセスメント、他者からの観察とフィードバック、チームによる協働作業の場での、自身の行動や貢献に関する自己診断やメンバーからのフィードバックなどを、プログラムに積極的に織り込む。

(2) カリキュラム・ポリシー(続き):

- リーダーシップは、思い、志、情熱がなければ十分に発揮できないことはいうまでもない。他者からの命令や周囲から評価されるという外的な動機づけだけでは、不確実性やリスクと対峙し、時に逆境に耐えて挑戦を続けることはできない。残念ながら、思い、志、情熱という内発的なドライバーは、知識の修得で身につくものではない。自分は何者なのか。何をするために生を受けているのか。自分が人生を通じて成し遂げたいことは何か、といった一連の問いを繰り返し自分に投げかける中で、所属や肩書による制約から解放された「個人としての意志力」として、より明確となるものである。こうした認識から、至善館のプログラムでは、心理学やコーチングの手法を積極的に取り入れ、内省、自己との対話を促すワークショップを繰り返し実施する。

(3) アドミッション・ポリシー:

入学者の受け入れにあたっては、次の3つの要素を重視する。選抜審査にあたっては、これらの要素について入学者が持つ潜在性(ポテンシャル)を総合的に勘案する。

- **自分自身の手で人生を切り拓こうとする姿勢**

所属(あるいは自身が経営)する組織において、自らイニシアティブをとって人やチームに影響力を発揮し、変化を創りだすリーダーシップを発揮した経験を持っていること。また、これまでの人生経験を通して形成されてきた“自分”という存在について、自分なりの認識をもっていること。また、本学の教育課程の受講を通じて、自らを磨き、単なる機能別スペシャリストではなく、経営・起業を担う人材をめざす意欲を持っていること。

- **知的な吸収能力と本質的な思考力**

本学の教育課程を咀嚼し吸収するうえで必要となる、基礎学力、知的能力、知的好奇心、物事の本質を探究しようとする姿勢を有していること。その上で、事象の表層を安易に受け入れることなく、根底にある複雑な要因を構造化し、あるいは対峙するにあたっての自身の仮説を論理的に推論しながら形成し、建設的な議論ができる能力を有していること。

(3) アドミッション・ポリシー(続き):

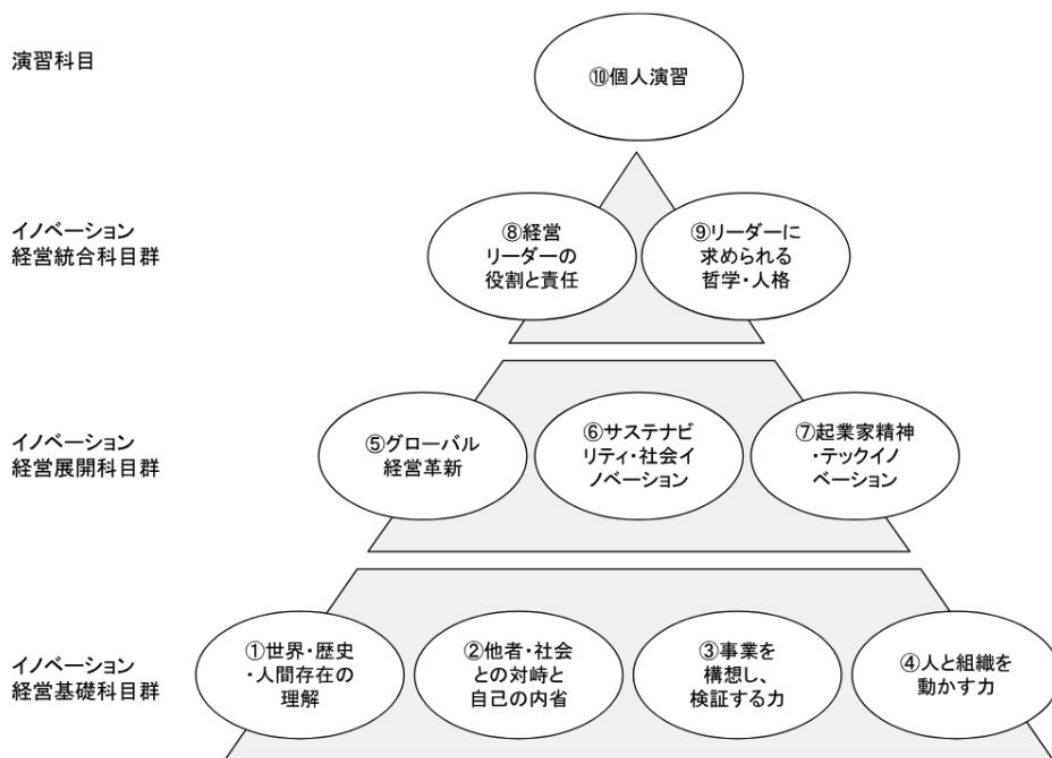
- **人、組織、社会/世界への深い問題意識と、他者への貢献意欲**

世界の情勢や社会を取り巻く状況に関心を持ち、時代の潮流や行く末に対して、問題意識を持っていること。また、自身が所属・経営する組織の課題と挑戦について、自分なりの考えをもっていること。そして、人間という存在や、人間の営みが創りだす組織活動やコミュニティ、社会に対して、理想主義にも悲観主義にも陥ることなく、また、表面的な理解にとどまることなく、現実と向き合い深く考察する姿勢を持っていること。何よりも、こうしたリアリティを伴う深い問題意識を、自分自身の中にとどめず積極的に他者と共有し、相互触発や切磋琢磨のなかで互いの学びと人間成長に繋げてゆく意欲を持っていること。

4. カリキュラムと授業

カリキュラムの構成

至善館のカリキュラムは、変革と創造を牽引できる経営プロフェッショナルとしてのスキルを持ち、人間性と社会性を兼ね備えた全人格リーダーへの成長を促すべく、ヒューマニティの尊重を基軸に、独自の教育哲学とアプローチにより設計されている。実質20ヶ月に渡る授業は、学びの最大化を目的に段階的に効果的に配置されている。本学の教育体系は、「イノベーション経営基礎科目」「イノベーション経営展開科目」「イノベーション経営統合科目」「演習科目」の4つの科目群で構成される。（下図参照）



イノベーション経営基礎科目

企業家・起業家として成長・活躍していく上で基礎となる知識や技術を学ぶ。この科目群は、更に4つに区分される。

① 世界・歴史・人間存在の理解

リーダーとして未来を切り開き、挑戦を描くための基礎となる、人間観、歴史観、世界観を涵養する

＜科目＞「企業論－企業、市場そして社会－」「近代哲学、資本主義、人間存在の未来」「宗教から考察する社会構造と世界の多様性」「社会システムの理論と人間存在の未来」「科学技術・イノベーションと人間存在の未来」「東洋思想と日本の精神文化」「持続可能性への挑戦：ジレンマと向き合い、未来を探求する」「フィールドスタディ」

② 他者・社会との対峙と自己の内省

自己との対峙、今後のキャリアの展望を通じ、これからの社会において求められるリーダーの在り方を模索し、一人ひとりのリーダーとしての成長の基礎を固める

＜科目＞「世界と未来に対峙するリーダーの条件」「リーダーシップの旅を展望する」「多元的世界に生きる－衝突、対話、共生」「自己との対峙と基軸の確認」「自分にとってのリーダーシップ－理想と現実を生きる」



イノベーション経営基礎科目(続き)

③ 事業を構想し、検証する力

企業家・起業家として、事業構想を描き、検証していくための知識・スキルを学ぶ。

＜科目＞「財務分析評価と経営管理の梃子」

「市場の原理と企業金融の理論」「システム思考:複雑性と対峙し、変化を生み出す」

「マーケティングの原理と実践」「構想する力」「構想を具現化する力」「戦略手法と戦略思考」

④ 人と組織を動かす力

企業家・起業家として、自身の描いた構想の実現に向けて人と組織を動かしていくための対人スキルを学ぶ。

＜科目＞「思いとビジョンを伝える技法」「人と組織のマネジメント」「人と向き合い人を動かすリーダーシップ」「リーダーシップと交渉学」



イノベーション経営展開科目

「イノベーション経営基礎科目群」を土台に、より専門的な学びを行う。自身のこれからの「リーダーシップの旅」を見据えて、3つのトラックの中から、自身の主たる挑戦領域に近い科目を選択する。

⑤ グローバル経営革新

リーダーとして自らが描いた構想を実現するため、組織をデザインし、組織能力を構築するとともに、組織を変革することを学ぶ。

＜科目＞「経営政策の論理と実践」「グローバル戦略と経営」

⑥ サステナビリティ・社会イノベーション

主にサステナビリティやNPO、社会企業におけるリーダーを志す学生を対象とした科目群

＜科目＞「ソーシャル・インパクトの創出」「サーキュラーエコノミー：未来の事業・経済・社会を構想する」

⑦ 起業家精神・テックイノベーション

起業家、或いは社内起業家として、イノベーションを起こすことを学ぶ。またAIをはじめとするテックイノベーションやDXを牽引するリーダーを志す学生を対象とした科目群

＜科目＞「DXとプラットフォーム戦略」「AIのインパクト：潜在力と課題を考える」「アントレプレナーシップと事業創造」

イノベーション経営統合科目

リーダーとして、全体を俯瞰的に見る視野・姿勢を学ぶ。
この科目群は、次の2つから成る。



⑧ 経営リーダーの役割と責任

要素還元的にビジネスの一側面に焦点を当ててるのではなく、ビジネス全体を統合的に考える

＜科目＞「事業計画の作成とビジネスモデルの構築」「資本主義の未来ービジネスとリーダーの新たな役割と挑戦」

⑨ リーダーに求められる哲学・人格

リーダーに求められる哲学や人格を涵養する

＜科目＞「リーダーとしての生き方」「身体感覚と内省(ヨーガと内省)」「リーダーに求められる心の在り方(座禅と講和)」

演習科目

本学における学びを統合する機会として位置づけられ、一人ひとりが、自身の卒業後の全人格経営リーダーとしての挑戦についての構想を描く。

＜科目＞「個人演習1」「個人演習2」「海外演習1」「海外演習2」「海外演習3」「海外演習4」

授業

パートタイムのプログラムとして運営され、授業は全て平日夜及び、週末・祝祭日に行われる。

平日夜(18時30分～21時45分)

週末・祝祭日(8時30分～20時00分)

※一部、集中講義となる科目がある。



5. 学修の成果に係る評価及び修了の認定に当たっての基準

成績評価の全体像

コースの評価基準は「S / A / B / C / F / I」、または「P / F / I」で行う。

「F」と「I」は、コースの修了とは認められない。「F」は受講はしたものの、その成績が最低限必要なレベルに達しなかったと評価される場合に付与され、「I」は学生がやむを得ない理由により、授業科目の成績評価の前提条件(出席要件の充足や、課題の提出など)を満たすことができないと、当該学生からの報告・相談を元に担当教員が判断した場合に付与される。

合 否	修 了				不 可	
評 価	S	A	B	C	F	I
評価基準	特に優秀な成績	優れた成績	要求を満たす成績	修了と認められる成績	不可	評価不能
成績評価分布	20%以下	50%以下	20%以上	10%以上	-	-

合 否	修 了	不 可	
評 価	P	F	I
評価基準	修了と認められる成績	不可	評価不能

修了の認定に当たっての基準

本学の科目は、必修科目、選択科目、自由科目から構成される。

- 必修科目は、全ての学生に履修を求めるものである。
- 選択科目は学生が関心、問題意識、進路方針に基づき、選択し履修するものである。

全ての必修科目を履修し40単位を取得することに加え、選択科目から計5単位以上を取得し、合計45単位以上を取得することが修了要件となる。

これらの要件を満たしたものに対して、「経営修士(専門職): Master of Business Administration in Design & Leadership for Societal Innovation」の学位を授与する。

なお、自由科目は、修了要件の対象にはならない。ただし、履修に関する履歴は成績証明書に記載される。

履修モデル:想定する人物像

至善館は、イノベーションと変革を牽引する経営リーダーを輩出することをそのミッションに置く。その活躍のフィールドは、ビジネスにとどまらず、ソーシャルセクターやパブリックセクターを含む。一方、特定の分野におけるスペシャリストの育成は想定していない。これらを踏まえ、以下の 4つのタイプの人物像を想定し、それぞれのタイプでの活躍を志向する学生ごとの履修モデルを設定している。

タイプ	人物像
グローバル企業の事業変革・再構築の担い手	グローバルにビジネスを展開する企業の経営リーダーとして、事業の再生、再構築、グローバル成長、組織変革の構想を描き、推進し、社会にインパクトをもたらす人材
ビジネス起業家	市場における機会をとらえ、新たなビジネスの構想を描き、リソースやチームを集め、事業の創出(企業内起業も含む)と成長に挑戦することを通じて、社会にインパクトをもたらす人材
社会起業家	社会における課題を捉え、その解決にむけた事業構想を描き、リソースやリソースやチームを集め、事業の創出(社会起業)と成長に挑戦することを通じて、社会にインパクトをもたらす人材

履修モデル: 人物像ごとの履修モデル

経営修士プログラムは必修科目、選択科目、自由科目から構成される。必修科目は全員が履修し、42単位が修了要件となる。選択科目は2年次前期・後期に開講され、学生がその関心に応じて履修する。3単位以上の履修が修了要件となる。自由科目は学生がその関心に応じて履修するが、修了要件単位に含まない。以上を踏まえ、人物像ごとの履修モデルを掲載する(2年次については次ページ。自由科目は割愛する)。あくまでも参考として提示するものであり、以下と異なる履修を妨げるものではない。

(括弧内は単位数)

	1年次前期	1年次後期
必修科目 (全員が履修)	世界と未来に対峙するリーダーの条件(1) リーダーシップの旅を展望する(1) 企業論－企業、市場そして社会－(2) 財務分析評価と経営管理の梃子(2) 科学技術・イノベーションと人間存在の未来(1) 多元的世界に生きる－衝突、対話、共生(1) 近代哲学、資本主義、人間存在の未来(2) システム思考: 複雑性に対峙し、変化を生み出す(2) ※通年科目	システム思考: 複雑性に対峙し、変化を生み出す(2) ※通年科目 社会システムの理論と人間存在の未来(1) マーケティングの原理と実践(2) 市場の原理と企業金融の理論(2) 宗教から考察する社会構造と世界の多様性(1) 持続可能性への挑戦: ジレンマと向き合い、未来を探究する(1) 構想する力(1) 自己との対峙と基軸の確認(1) 構想を具現化する力(2) 戦略手法と戦略思考(2) 自分にとってのリーダーシップ－理想と現実を生きる－(1)

履修モデル:人物像ごとの履修モデル(前頁より続き)

(括弧内は単位数)

		2年次前期	2年次後期
必修科目 (全員が履修)		事業計画の作成とビジネスモデルの構築(2) 個人演習1 (2) 思いとビジョンを伝える技法(1) 人と組織のマネジメント(2)	個人演習2 (2) 人と向き合い人を動かすリーダーシップ(1) リーダーとしての生き方(2)
選択科目 (学生が自身の 関心に応じて履 修)	グローバル 経営革新	経営政策の論理と実践(2)	グローバル戦略と経営(2) リーダーシップと交渉学(2) 資本主義の未来ービジネスとリーダーの新たな役割と挑戦 (2)
	サステナビリ ティ・社会イ ノベーション	ソーシャル・インパクトの創出(2) サーキュラーエコノミー:未来の事業・経済・社会を構想する (2)	リーダーシップと交渉学(2) 資本主義の未来ービジネスとリーダーの新たな役割と挑戦 (2)
	起業家精神・ テックイノ ベーション	DXとプラットフォーム戦略(2) AIのインパクト:潜在力と課題を考える(1) アントレプレナーシップと事業創造(2)	リーダーシップと交渉学(2) 資本主義の未来ービジネスとリーダーの新たな役割と挑戦 (2)

6. 入学・在籍・修了の状況

収容定員: 160名

2025年9月1日現在の在籍者数 166名

2025年9月1日現在の外国籍学生数 42名、うち留学生数 4名

※在籍者数、外国籍学生数、留学生数には休学者を含む。

※留学生とは「留学」の在留資格を有する者。

入学定員: 80名

2025年8月の入学者数 81名

入学試験の内容、合否判定の方法及び基準:

入学者の選考は、出願書類による一次審査の後、面接試験による二次審査を経て、総合的に判定する。面接試験では、出願書類の内容を含め、アドミッションポリシーに定める3つの観点に基づき、総合的な評価を行う。面接試験では、入学者が履修を希望する言語(日本語あるいは英語)のネイティブスピーカーでない場合、面接試験において、口述(オーラル)の語学審査を行い、教育課程を十分に咀嚼できる語学能力の有無を判定することがある。

試験問題に関する情報

入学試験は書類選考及び面接試験のみで試験問題を使用する独自の学力検査を行っていない。

合理的配慮の提供に関する対応方法:

本学では、出願を希望する者に対して学校説明会や個別相談の機会を設け、アドミッション担当者へ事前に相談できる体制を整えている。また、出願時の基本情報シートには「修学上の特別な配慮」欄を設けており、記載内容はアドミッション担当者から教務・学務担当者へ適切に共有される。なお、記入された内容は合否判定や出願可否には一切影響しない。

就職率(直近3年の実績)

令和7年度修了生(2025年6月)	98.7%
令和6年度修了生(2024年6月)	100.0%
令和5年度修了生(2023年6月、2024年1月)	97.3%

※ 就職率は、日本私立学校振興・共済事業団の定義に従い、「就職者」+「進学者のうち就職している者」/「卒業者」-「大学院研究科等進学者」-「外国の学校等入学者」+「進学者のうち就職している者」によって計算した(少数第2位切り捨て)。なお、ここでいう「就職者」とは、「自営業主等」+「無期雇用労働者」+「有期雇用労働者のうち、雇用契約期間が一年以上、かつフルタイム勤務相当の者」を指す。また、入学時点に企業等に所属しているもので、卒業時点でも引き続き企業に所属している者は、就職者に含まれる。

※ 日本私立学校振興・共済事業団の定める情報公表に係る要件に従い、本学が採用する年度(8月20日～8月19日)とは異なる年度(4月1日～3月31日)表記で記載する。

修了者(学位取得者)総数 :455 名 (2025年9月1日現在)

直近3年の実績 令和7年度 ^{※1} 修了者(2025年6月)	78名 ^{※2} (うち社会人学生 ^{※3} 63名)
令和6年度 修了者(2024年6月、2025年1月)	77名 (うち社会人学生 63名)
令和5年度 修了者(2023年6月、2024年1月)	76名 (うち社会人学生 57名)

※1 日本私立学校振興・共済事業団の定める、情報公表に係る要件に従い、本学が採用する年度(8月20日～8月19日)とは異なる年度(4月1日～3月31日)表記で記載する。

※2 令和7年度修了者のうち、標準修業年限以内で修了した者の占める割合は 96.2%である。

※3 日本私立学校振興・共済事業団の定める要件に従い、「社会人の定義」に該当し、かつ日本国籍学生および永住者、特別永住者、定住者のうちいずれかの在留資格を持つ外国籍学生の合計数を記載。

修了後の状況(2025年6月修了者):

企業勤務	67	官公庁勤務	1	海外企業勤務	0	自営業	3
NPO／NGO勤務	6	進学	0	不明	0	その他	1

7. 課外活動と学生サポート

課外活動

学生たちは、至善館のキャンパスのある日本橋地域の活動に積極的に参加している。また、自主企画イベント等も適宜開催している。



学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援

本学では、1年次学生を対象に、アカデミックメンター制度を設けている。アカデミックメンターは、本学の専任教員及び一部の兼任教員(特命教授)が担い、学習上の悩みに関する相談役として、学生の支援を行う。1年次秋頃から翌年5月下旬頃までの間に、メンタリングの機会を複数回設けることを想定しているが、学生は必要に応じて随時、面談をリクエストすることが可能となっている。なお、2年次には、各自が所属するゼミ(個人演習)の担当教員が、1年次におけるアカデミックメンターの役割を継続して担う。

8. 施設及び設備

① 大講義室(3室)

グループ形式 72名程度収容

シアター形式 132名程度収容

スクール形式 84名程度収容



② 演習室(4室)

6～9名収容



※校舎等の耐震化率 100% (2025年9月1日時点／本学の校舎等はすべて借用)

8. 施設及び設備

③ ライブラリー

30席



④ スタジオ

220名程度収容



※校舎等の耐震化率 100% (2025年9月1日時点／本学の校舎等はすべて借用)

9. 専門性が求められる職業に就いている者、当該職業に関連する事業を行う者その他の関係者との協力の状況

本学では、学校教育法第99条および専門職大学院設置基準第6条の2に基づき、教育課程連携協議会を設置し、当該協議会での議論の結果を参考に、教育課程の検証と改善を行っている。

<教育課程連携協議会 構成員>

- ・加賀谷 順一 (IESEビジネススクール マネジング・ディレクター
エグゼクティブ教育部門アジア統括)
- ・北城 恪太郎 (日本IBM名誉相談役、経済同友会終身幹事)
- ・高津 伊兵衛 (株式会社になべん 代表取締役社長)
- ・安淵 聖司 (アクサ・ホールディングス・ジャパン 代表取締役社長兼CEO)
- ・野田 智義 (大学院大学至善館学長)
- ・吉川 克彦 (大学院大学至善館副学長・学術院長・教授)
- ・大滝 精一 (大学院大学至善館副学長・教授)

<過去5年の開催状況>

2020年度:2021年3月8日開催

2021年度:2022年3月4日開催

2022年度:2023年3月8日開催

2023年度:2024年3月5日開催

2024年度:2025年3月4日開催